

2019 空調冷熱 新潟特集

独自開発のフロン漏えい検知システム・Freon Keeper(以下フロンキーパー)を...

資本業務提携でシナジー確立を

ブランディング「発信力」強化も

先頃、6月3日には新潟市内に本社を置き、1950年(昭和25年)に創業した古参の冷設業者である新冷工業と資本業務提携を行いグループ化した。

複数の修正などを進めている段階」とし、例えばナンバは本社を中越・長岡へ、新冷工業は下越・新潟にそれぞれを配置して...

当時、この資本業務提携については両社の相乗効果、業務連携による対応力強化、資本・業務の効率化、採用力の強化などを打ち出していくものとしていた。

調査対象はマレーシア社が持つフロンキーパーや省エネコントロールE2、また新冷工業が長年実績を積んできたフロアヒーティングシステムなどは、いわば「飛び道具」と考え、既存ユーザーを含め、新規ユーザーの抑制について、フロンキーパーを使用している管理を含む機器運転の最適化による温室効果ガス排出削減効果の調査を行ったものだ。

注目すべきは、またIoT技術によってマレーシアと日本、直線距離にして5千137キロ(凡そ3千192マイル)と離れた空間で様々な測定データをリアルタイムで一括集中管理をして、早期の漏えい検知と適切な修理対応を行うことで過度な電力使用を抑え、温室効果ガス排出削減にも寄与するところだ。

今後の展開について難波俊輔社長に聞いた。「6月3日以降、約3カ月を掛けて、お客様、取引先、協力業者、金融機関などへ挨拶まわりを行う。スムーズな移行が図れる。一様に新冷工業の去年実績を積んできたフロアヒーティングシステムなどには安心と理解を示して頂いた。現在は各種経費の見直しや出先の重なる点と考える。例えば当社が持つフロンキーパーや省エネコントロールE2、また新冷工業が長年実績を積んできたフロアヒーティングシステムなどは、いわば「飛び道具」と考え、既存ユーザーを含め、新規ユーザーの抑制について、フロンキーパーを使用している管理を含む機器運転の最適化による温室効果ガス排出削減効果の調査を行ったものだ。

調査対象はマレーシア社が持つフロンキーパーや省エネコントロールE2、また新冷工業が長年実績を積んできたフロアヒーティングシステムなどは、いわば「飛び道具」と考え、既存ユーザーを含め、新規ユーザーの抑制について、フロンキーパーを使用している管理を含む機器運転の最適化による温室効果ガス排出削減効果の調査を行ったものだ。

こうした状況は専門業者の間でも殆ど認識されていないのが現実で、同社のフロンキーパーでは10割程度の漏えい時点を検知し、そのフラッシュガスを超音波センサーで検知し、そのフラッシュガスの発生率によって漏えいの状況を判



フードシステムソリューション展の同社ブース

検知が可能となるため、無駄な電力消費を抑えることができるPRしている。

さて自社開発製品をNEDOの採択事業としてASEANにおいて展開した先進的なナンバの取り組みは今後の同社の事業軸へも作用していくことは確かだろう。

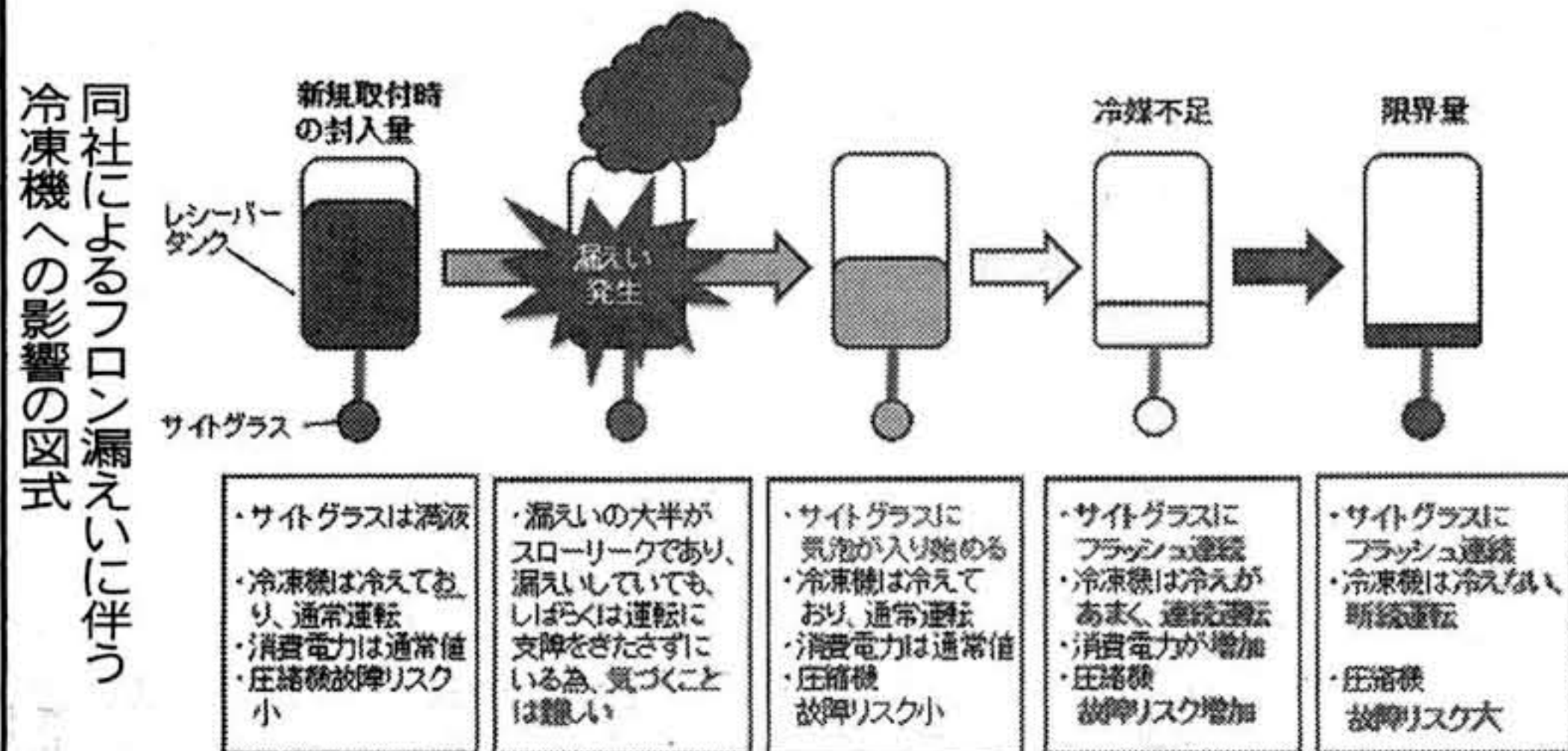


難波 昇一 会長



難波 俊輔 社長

調査結果を発表した。同社によるフロン漏えいに伴う冷凍機への影響の図式



同社によるフロン漏えいに伴う冷凍機への影響の図式

同社によるフロン漏えいに伴う冷凍機への影響の図式